

# 一般社団法人日本口腔顔面痛学会 2019年度事業報告書

自 2019年9月1日 至 2020年8月31日

一般社団法人日本口腔顔面痛学会は、口腔顔面痛学に関する研究の進展及びその臨床応用についての研究発表、知識の交換、会員の生涯学習の援助並びに会員相互及び内外の関連学会との連携協力を行うことにより口腔顔面痛学の進歩普及を図り、我が国の学術の発展に寄与すると共に国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする。(定款第3条)

これらの遂行のために、2019年度(2019年9月1日～2020年8月31日)に以下の事業を実施した。  
なお2019年度は、コロナ禍(COVID-19の感染拡大)により大幅な事業計画の変更を余儀なくされた。

## 1. 学術大会の開催

### 第24回学術大会

2019年9月28日(土)・29日(日)の2日間、第24回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会(大会長:村岡渡)を川崎市産業振興会館(神奈川県)において開催した。

## 2. セミナーの開催(セミナー企画運営委員会:村岡理事)

セミナー企画運営委員会では、コロナ禍の状況を踏まえながら開催形式などの検討も含めて協議を重ね、以下のようにセミナーの中止やWEBセミナーの開催といった対応を行なった。

### 1) 【Headache Academy for Dentists】

会期:2019年11月16日(土)  
会場:浦和ロイヤルパインズホテル  
共催:第47回日本頭痛学会総会  
担当委員長:井川雅子 担当副委員長:大久保昌和  
参加人数:56名(申し込み人数)

### 2) 【精神医学セミナー】

会期:2020年1月19日(日)  
会場:慶應義塾大学病院  
担当委員長:小見山道 担当副委員長:飯田崇、渡邊友希  
招聘講師:北海道医療大学 松岡紘史先生(臨床心理士)  
講義内容:認知行動療法  
参加人数:43名

### 3) 【口腔顔面痛ベーシック Web セミナー】

会期:2020年7月12日(日)～19日(日)  
会場:WEBにて開催  
担当委員長:野間 昇 担当副委員長:渡邊友希  
参加人数:128名(申し込み人数)

#### 4) 【口腔顔面痛脳学習キャンプ in 信州】

会期：2020年8月22日（土）～23日（日）の予定がコロナ禍で中止

会場：松本歯科大学本館解剖学実習室

担当委員長：金銅英二 担当副委員長：西須大徳

### 3. 学会誌などの発行（学会誌編集委員会：篠田理事）

学会誌第11巻（2018年度分）を2019年11月に発行した。

学会誌第12巻（2019年度分）を2019年12月に発行した。

### 4. 口腔顔面痛に関する資格認定事業

#### 1) 専門医等および研修機関認定活動（専門医等認定委員会：佐久間理事）

暫定指導医審査等を行った。定例試験はコロナ禍により次年度（2020年11月）に延期した。

#### 2) からだ・運動器のいたみ専門医療者の推薦（からだ・運動器のいたみ専門医療者認定試験資格審査委員会：佐久間理事）

2020年2月、第5回からだ・運動器の痛み治療専門者試験を口腔顔面痛学会からの受験を1名が希望した。審議の結果、要件を満たしていたため受験資格証明を発行した。

### 5. 研究の奨励および表彰

#### 1) 研究の奨励

口腔顔面痛関連研究の推進と奨励を行った

#### 2) 表彰

##### ①最優秀ポスター賞（ポスター賞推薦委員会：小見山理事）

2019年9月に開催された第24回日本口腔顔面痛学会学術大会において最優秀ポスター賞として基礎系より1演題、臨床系より2演題、優秀ポスター賞として基礎系より1演題、臨床系より3演題を選出し表彰を行った。

##### ②優秀論文賞（優秀論文賞委員会：篠田理事）

学会誌第10巻に掲載された論文の中で優秀論文を1編選出し、2019年9月に開催された第24回日本口腔顔面痛学会学術大会において優秀論文賞として表彰を行った。

### 6. 国内交流事業

#### 1) ペインコンソーシアムを通じた交流（ペインコンソーシアム関連：牛田理事）

痛みに関する課題の共有と方策について協議する目的で、日本疼痛学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、日本ペインリハビリテーション学会、日本腰痛学会と設立した「日本痛み関連学会連合」を通じて、国内の疼痛団体と交流した。

#### 2) 神経障害性疼痛関連学会合同シンポジウム（セミナー企画委員会：村岡理事）

会期：2020年3月予定がコロナ禍で中止となった。

会場：慶應義塾大学病院

共催：日本口腔外科学会、日本歯科麻酔学会、日本歯科薬物療法学会、口腔顔面神経機能学会

担当委員長：福田謙一 副担当委員長：坂本英治

3) 第24回日本歯科医学会学術大会公募セッションへの演題共同申請（学術委員会：村岡理事）

2021年開催予定の日本歯科医学会学術大会の公募セッションへ、タイトル「歯科治療後の痛みや感覚障害への対策」として、当学会が主たる申請者として、「一般社団法人日本歯科麻酔学会」「一般社団法人日本歯科薬物療法学会」「一般社団法人日本歯内療法学会」と共同申請を行った。

4) 積極的な交流

本学会の目的達成のため、国・官公庁、国内外の医歯学・医療関係団体との協力、協議を行った。

## 7. 国際交流事業（国際交流委員会：小見山理事）

国際歯科研究学会（International Association for Dental Research）の神経科学グループ（Neuroscience Group）およびINFORM（International Network for Orofacial Pain and Related Disorders Methodology）、アジア頭蓋下顎障害学会（Asian Academy of Craniomandibular Disorders）、米国口腔顔面痛学会（American Academy of Orofacial Pain）、国際疼痛学会（International Association for the Study of Pain）のOFHPSIG（Orofacial and Head Pain Special Interest Groups）との情報交換を行った。

## 8. 歯科医療の向上のための事業

1) 診療ガイドライン（ガイドライン作成委員会：坂本理事）

非歯原性歯痛の診療ガイドライン改訂、非歯原性歯痛の診療ガイドラインのGRADE版作成、口腔顔面痛に対する運動療法のGRADE版診療ガイドライン作成を行なった。

2) 口腔顔面痛教育シラバス（シラバス委員会：大久保理事）

口腔顔面痛教育シラバス（2016年度策定）の改訂を行った。

3) 口腔顔面痛教育指針（シラバス委員会：大久保理事）

口腔顔面痛教育指針（卒前、研修医、認定医、専門医）策定の検討を行った。

4) 社会保険（医療保険委員会：佐々木理事）

①令和2（2020）年度診療報酬改定に向けて、現在、医療技術評価提案書として申請準備をしている「三叉神経ニューロパチーを歯科特定疾患療養管理料の対象疾患として含める」件について、採択されるように関係機関への説明を含めて活動し、採択された。

②前年度から準備をしているデュロキセチン（商品名サインバルタカプセル）の「三叉神経ニューロパチー」への適応拡大につき、令和2（2020）年度診療報酬改定に向けて活動したが、採択されなかった。

③令和4（2022）年度診療報酬改定に向けて、認知行動療法、運動療法を始めとして保険収載候補、適用拡大候補を選定する準備をした。

－1. 令和元（2019）年度採択の日本歯科医学会連合医療問題関連事業：新しい医療機器および技術の導入に関する資料収集および調査研究「口腔顔面痛に対する認知行動療法および自律訓練法についての調査研究」に関し、和文報告書の提出ならびに英文レビュー論文の製作・投稿を行った。

－2. 同じく令和2（2020）年度日本歯科医学会連合医療問題関連事業：歯科医療制度と歯科医療問題に関する資料収集および調査研究に本学会から応募した「口腔顔面痛に対する運動療法について

の調査研究」が採択され、レビュー論文執筆に向けて準備を開始した。

④口腔顔面痛医療の健康へ果たす役割に関する学術的根拠の収集、蓄積と医療技術評価提案書の作成、およびこれらをわが国の歯科医療制度・政策へ反映させるための提言を行う準備をした。

5) 医療問題関連の活動（松香理事長）

種々の医療問題に関する見解の取りまとめと解決を行った。

6) 学習管理システムの開発（教育システム開発プロジェクトリーダー：佐々木理事）

プロジェクトタイトル「慢性口腔顔面痛の生涯教育プログラムに資する Evidence based 学習管理システム（Learning Management System）の開発」

2018年5月にプロジェクトチームを結成し、国際疼痛学会/日本疼痛学会/ファイザーによる「学習と変革のための独立助成金提案依頼（RFP）：日本における疼痛治療の抜本的改革を支援する教育プログラム」の補助金公募に応募した。その結果、2019年9月17日、国際疼痛学会から採択の正式報告を受けた。独立助成金は3年間で2,451万1,396円（23,8912.5 USD）である。

現在、プロジェクトチームにおいて learning management system の開発を行っている。

7) 情報通信機器を用いた診療についての研究（佐々木理事）

口腔顔面痛領域ならびに訪問歯科診療領域でのオンライン歯科診療の必要性、要件に関する研究を行うことを目的に、「歯科診療における情報通信機器を用いた診療についてのルール整備に向けた研究」（研究代表者：佐々木啓一東北大大学院教授）の課題名で、令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）を申請し、採択された。

8) 臨床研究（学術委員会：村岡理事）

口腔顔面痛疾患の臨床統計や診断基準の検討を行うための臨床統計を実施した。

9) 会員の倫理向上（倫理委員会：大久保理事）

倫理・懲戒に関する規則の違反行為者の調査を行ったが、違反行為はなかった。

利益相反も含めた規則制定作業を行った。

10) 会員の利益相反（利益相反委員会：今村理事）

会員に対する利益相反の啓発活動ならびに役員以外の委員（長）や作業部委員からの利益相反の自己申告について検討した。

11) その他

選挙等（選挙管理委員会：佐々木理事）

2019年度中は、理事及び評議員の選挙は行わなかった。

**9. 広報事業**（広報委員会：井川理事）

1) ホームページおよびメーリングリスト、ニュースレターでの情報開示を推進した。

2) 口腔顔面痛学会および口腔・顔面領域の疼痛疾患に関する医療の、医療関係者および国民への周知徹底のための諸施策の実施を行った。

3) 「本会の会員数を増やすためには誰に対して何を発信すべきか」を明確にすべく、会員に対し、「口腔顔面痛学会の会員が、学会に何を期待して入会したのか？」のテーマでアンケート調査を実施した。

内容の作成は、今後のセミナーや学会で取り上げるテーマに反映させるため、セミナー委員会と連携して行った。その結果、回答者の90%強が臨床系の歯科医師であり、口腔顔面痛に関する知識を求めて入会していること、また研修機関に所属する人の47%が、指導体制や教育システムが整っていない事に不満を持っていることがわかった。

4) ホームページの管理業務における運営体制を検討した。

5) ニュースレター (NL) 41-46 号を発行した。

## 10. 会議の開催 (佐久間総務担当理事)

2019年度は以下の会議を実施した。

### 1) 理事会

#### 第1回定時理事会

2019年度事業報告承認、決算承認、その他協議を行った。

#### 第2回定時理事会

2020年度事業計画審議、予算審議、その他協議を行った。

#### 臨時理事会

必要に応じて、適時、臨時理事会を開催した (インターネット開催を含む)。

### 2) 各委員会

本学会が目的とする事業を達成するため、各委員会を開催した (インターネット開催を含む)。

## 11. 本学会の社会的地位向上のための活動

### 1) 広告のできる専門医

広告のできる専門医の資格取得のため、会員の増加を図った。

### 2) 日本歯科医学会専門分科会

専門分科会加入を申請したが、残念ながら申請は認められなかった。

### 3) 日本歯科専門医機構

同機構について情報収集をした。

## 12. 会員の顕彰

### 1) 名誉会員の推挙 (松香理事長)

本学会の発展のために特に顕著な功績のあった岩田幸一会員、矢谷博文会員、嶋田昌彦会員 (順不同) に対し、名誉会員の称号を贈呈した。

### 2) 功労会員の推挙 (学会特別功労賞推薦委員会 : 今村理事)

これまでに退職され、本学会に多くの貢献をなされた会員の中から功労会員を推戴することを計画したが、該当者はいなかった。

## 13. その他

目的達成のために必要と認められる事業を行った。